

三鷹市山本有三記念館企画展

山本有三没後40年

絶筆

濁流

2014年11月8日「土」—2015年3月22日「日」

三鷹の家で執筆した「路傍の石」が国民的代表作となった山本有三「1887—1974」。戦後間もなくから国語審議会の当用漢字主査委員長や貴族院議員などの要職を歴任し、大森区（現大田区）に移り住んだ後に参議院議員となります。文化委員長として国立国語研究所の設立や祝日法の制定に尽力する中、多忙な議員活動の合間をぬって「無事の人」を執筆。「新潮」1949年4月号に発表された本作が、戦後唯一の完結作となりました。

議員の任期満了を迎えた有三は政界を退き、湯河原を終の棲家と定めます。長く思索の日々を過ごし



山本有三 湯河原の家にて

ていきましたが、1973年4月、「毎日新聞」に「濁流 雑談 近衛文麿の連載を開始。「無事の人」以来、実に24年ぶりのことでした。41回まで連載したものの、体調不良により執筆を中断。7月に86歳となった有三は連載再開に強い意欲を見せていましたが、翌年1月11日に死去し、「濁流」が絶筆として遺されました。

本展では劇作家出身ならではの語り口の妙が光る「無事の人」と、近衛と同時代に生きた作家による近衛伝「濁流」を中心に、有三の後半生を辿ります。また80歳の年に出版された『山本有三自選集』（集英社 1967年）収録の俳句や、生前最後の自選集『無事』（ほるぷ出版 1972年）のあとがきに寄せられた「死にべた」を通して、老いと向き合う有三の姿を捉えます。

明治・大正・昭和という激動の時代を生き、戯曲や小説はもちろんのこと、文化人としても多くの業績を残した有三。没後40年にあたる本年、作家活動の集大成に位置付けられる作品をふり返ると共に、老境にさしかかった有三が辿り着いた「無事」の境地を考えます。

展示室から

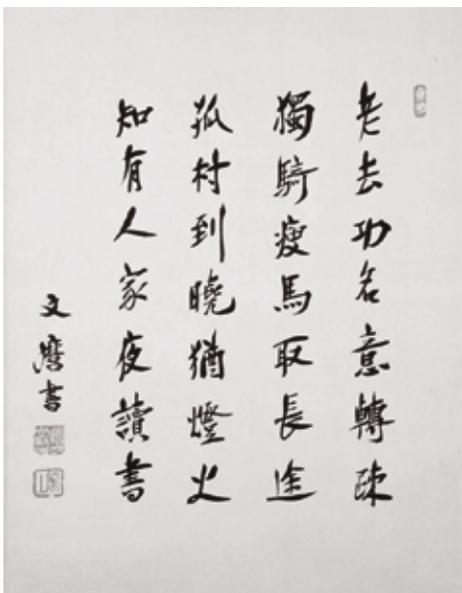
近衛文麿筆 「夜行」

軸装 紙本・墨 332×246mm

近衛文麿「1891—1945」は、貴族院議長や学習院院長を務めた公爵近衛篤麿の長男として生まれました。文麿も京都帝国大学在学中から貴族院議員となり、後に3度に渡って首相を務めました。戦後に戦犯指定を受け、荻窪の自宅で自死しました。近衛家は藤原鎌足を祖とする五摂家筆頭の家柄で、「寛永の三筆」と称された信尹など、書・和歌などに優れた人物も数多く輩出しています。

中国北宋の詩人・晁冲之の七言絶句「夜行」を墨書したこの作品は、文麿から有三に贈られたものです。一高で出会い、近衛が亡くなる前日にも会っていたという近衛と有三の交流が偲ばれます。

渡辺美知代（文芸企画員・学芸員）



〈訳〉年老いるままに世間の名誉にますます背を向けた私だ。瘦せ馬にゆられ長い一人旅を続けてきたが、辺鄙な村里に夜明けまで灯りが見えている。あれは今夜も読書にはげむ家があるのだから。

参考 『世界文学大系 中国古典詩集』（筑摩書房 1963年）

特別掲載

近衛公を語る

山本有三

決心されて立たれた以上は、十分にやっていたきたいと思いません。

しかし、現在は一方に軍備拡張という大きな問題があり、それに伴う物価騰貴、げんにどんどん物が高くなってきた際には、一方では農村、漁村、あるいは中小工業者、あるいはサラリーマンなどの生活の安定を計らねばならないという大問題を控えているのだから——つまり、右に駆けて行こうとする馬と、左に駆けて行こうとする馬とを、一本のたづなで引きしめて行こうというようなもので、じつに容易ならない局面と思いますが、これに対して近衛さんは、どういう方針を持って処理して行こうという考えであるのか……

おそらく、近衛さんは今度だつて応じたくなかったに相違ないでしょう。しかし、今度近衛さんが立たないようならば、自分の一身だけをかばって、国家の大事に身をささげないというような声が起こっているようにも聞いているから、近衛さんとしては、今度はどうしてもご辞退ができなかったのではないだろうか。そう思うと、なんとも言えない気もちに打たれます。」

記者「しかし世論もそうだし、立派な人物として近衛公が出馬すれば、国民全体が明朗な感じになると思いますが——」

山本「それはいかなる人が首班に立たれたよりも、近衛さんは明朗な感じがしますね。——そうして、われわれ国民として希望することは、その明朗でどこまでも押しきってほしいことです。」

山本有三と近衛文磨は第一高等学校の同級生でした。東京帝大独文科に進んだ有三に対し、近衛は同大哲学科から京都帝大文科へ転学。交友は一時途絶えますが、座談会や対談などでは顔を合わせていました。

「近衛公を語る」は、林銑十郎内閣の退陣によって近衛に組閣の本命が下った1937年6月1日の夜、来訪した読売新聞記者の質問に対して有三が答えたものです。当時の有三が近衛をどう捉えていたか、また学生時代のエピソードも明かされており、有三と近衛との関係を考える上で、重要なものと位置付けられます。企画展「山本有三没後40年 絶筆『濁流』」の開催にあたり、全文を掲載します。

記者「近衛公が本命を拝受しましたが、公の人となりや、引き受けたことについて、あなたのご意見を伺いたいと思います。」

山本「そうですね。とうとう引き受けましたか——。

近衛さんはあの通り政権欲があるわけではなし、今までの情勢からすると、今度も当然拝辞するものと思つてましたが、引き受けられたとすると、今度は非常な決心を持つて立たれたものと思います。堂上の人という点もあるが、いったいに近衛さんは慎重な人で、容易に腰をあげることがないのに、とうとう立たれたのは、四囲の事情からやむを得なかつた点もありましようが、近衛さんとしては、身心をなげうつてのご奉公のほぞ、を固められたことと思います。もともとそう健康の体質でもないのに、この難局を引き受けられたということは、一種悲壮な感じさえいたします。個人的に考えれば、近衛さんに傷がつかないように、前まえ通り拝辞されるほうが望ましいようにも考えられないではありませんが、近衛さんが

前のように暗いものがつきまどつていては絶対にいけない。総選挙に負けても、からいばりしているなどは醜なるものです。あんなことであつては国民の総意が無視されるから、手まひまかけて今後は投票場にも行かなくなるのではないか……。民衆の心を心としない政治は決して長つづきしません。

近衛さんが、どういう方針を持つてこの難局を乗りきろうとするか、それは私は知らないけれども、近衛さんも大命を拝受した以上は、相当の覚悟を持つておられることと思います。今度のは無論挙国一致内閣に相違ないのでしようから、軍部も政党も無理を言わないで、近衛さんの根本方針を遂行できるように務めてもらいたいものです。この近衛内閣が短命のようであつたら、だれが出てきてもなかなか収拾することができないでしょう。その意味で今度の内閣は是非ながく続けさせたい。そうして、本当に現代の日本を固めてもらいたいと思います。それには、是非とも軍部も政党も無理を言わないことです。同時に近衛さんも、少しくらいのことがあつたらといつて、いやけを起ささないようにしてもらいたい。何しろ、総理大臣が目の前にぶらさがつても、容易に引き受けないような淡泊な人だから、多少の非難があると、未練なく辞職したい気もちになるかも知れませんが、この大局を引き受けた以上は、そんなちいさいことにとらわれないで、思いきつてがんばつてもらいたいと思います。そうして、自分の在職の間に新日本の基礎を築きあげるといふ大きな覚悟で当たつていただきたい。」

記者「現在の近衛さんのことについてはだれも知つてゐると思いますが、学生時代の近衛公を、少しお話していただけませんか。」

山本「近衛さんの中学時代のことは知りません。近衛さんは学習院の中等科を卒業されると、あすこの高等科にはいればなんの苦もなく大学に行けるのに、そういうらくな道を取らないで、われわれと同じように高等学校の入学試験を受けて、一高にはいったのです。この一事を見ても、近衛さんが普通のおくげさんのおぼつちやんでないことがわかると思いますが。私も同じ年に一高にはいつたので、偶然に近衛さんを知るようになったのですが、もし近衛さんが一高を受けなかつたら、私は恐らく近衛さんとお話を交えるような機会は恵まれなかつたでしょう。そのころこんなことがありました。ある日、四、五人で本郷の通りを歩いていた時に、だれかが焼き芋を買つてきて、皆で往來を食つて歩いたことがあります。その時、近衛さんにも食わないかと言つたら、さすがに近衛さんは、「ぼくは少し恥ずかしいなア。」と言つて、焼き芋を持つたままとうとうたべませんでした。そういうわれわれのなかまから総理大臣が出たことはなんともほほえましいしいです。

また、こんなこともありました。――菊池、久米、豊島なんかと第三次「新思潮」をやつた時、その雑誌にオスカー・ワイルドの「ソール・オブ・メン・アンダー・ソシアリズム」の翻訳を寄せられたことがあつたが、それが検閲に触れて発売禁止になりました。たしか大正三年の四、五月ごろのことと思います。今

までの総理大臣で社会主義のことを書き、また、それが発売禁止になつたなどという経験を持つた首相は、ひとりもないのではないのでしょうか。もつとも、西園寺さんは若い時から相当あたらしい思想の持ち主であつたように思いますが、近年の首相では、近衛さんだけの思想を持つた総理大臣は、ほとんど見あたらないと思います。

とにかく、こういうふうには、近衛さんは若い時から「社会」というものに目をつけておられたのだし、また、人口食糧問題等についても、つとに一家の見を持しており、ハウス大佐が提言する以前に、その問題を米国に行つて宣伝しているくらいですから、国内の経済問題、生活問題ばかりでなしに、外交問題に対しても、このさい大きい見地に立つて確固たる根本方針を立ててもらいたいと思います。しかし、政治は机上の空論でなくて摩擦が多いから、近衛さんといえども、どこまでできるかわかりませんが、現在の日本としては、近衛さんのような人に、こういう根本問題を処理してもらいたいと思います。そうして、さつきも言つたように、軍部も政党も近衛さんの政策を支持して、その政策の実現に協力してもらいたい。

個人としてはどこまでも近衛さんに傷がつかないようにと思つても、今や台閣に立つた以上は、どこまでも明朗に自分の所信を實行してもらいたいと思います。」(談話)

初出 「読売新聞」1937年6月2日

*『山本有三全集第12巻「新潮社」1977年を底本としました。

ガイドボランティアレポート 11 記念館で活動中のガイドボランティアより交代でレポートをお届けします

庭

記念館の南側に庭園が広がっています。

春のやわらかい日射しを浴びた新緑、咲き誇るハナミズキ、舞い踊るチョウ、蝉時雨、金木犀の芳香、そして雪景色……。絵筆を手にしたくなってきました。

水の流れるに耳を澄まし、季節が織り成す自然の美しさ、豊かさに心がやすらぐのは私だけでしょうか。

この庭園は、ボランティア活動に入る前のひとときをくつろがせてくれる場所なのです。

(井上 秀子)

「心に太陽を持って」に後押しされて

元気で歌が大好きな子供の頃。「心に太陽を持って」の詩は、私の心に強烈な印象を残しました。この詩を日本中に広めた有三と同じ三鷹に住み、文学と歴史を学び、ガイドになって来館者のみなさんと一期一会を楽しむことになることは、思いもよりませんでした。

文化財としての記念館は四季それぞれの良さがありますが、秋は趣が深まります。有三文学と西洋館に、庭の紅葉と静かさがマッチングして感動的です。一人でも多くの来館者に楽しんでいただきたいです。

(佐野 藤子)

▶▶▶事業報告

春の朗読コンサート

5月16日・17日

毎年多くのお申し込みをいただいているため、公演回数を2回に増やして行いました。有三の「小人国」「はなむけ」「アメリカと直線」に重なるように、マリンバの豊かな音色が会場に響きます。五木の子守歌からタンゴまでという幅広い選曲と、ユーモラスな有三の一面を感じさせる随筆に加えて合間のトークも盛り上がり、華やかなプログラムとなりました。



左：野田 香苗（朗読）

右：塚越 慎子（マリンバ）

【募集要項】

1. 応募資格：どなたでも応募できます。
2. 募集作品：三鷹市山本有三記念館又は有三記念公園を描いたもの。
3. 応募規定：応募は1人1点、未発表のものに限る。サイズは四切判（540mm×380mm）まで。画材規定なし（写真は不可）。壁面に展示できる状態の平面作品（厚みは2mmまで）とする。
4. 応募方法：作品の裏面に応募票を貼付し、山本有三記念館に持参又は送付してください。

夏休み親子ワークショップハードカバーに挑戦!!

8月3日

有三の「心に太陽を持って」を文庫本からハードカバーに作りかえました。表紙と見返し、しおりは好きな色を選べるとあって、子どもたちはワークショップが始まる前から見本の前を行ったり来たり。

文庫本をばらすところから、背を固め布表紙を付けるまで、約2時間の作業も大人以上の集中力で乗り切り、17人の参加者全員がオリジナルのハードカバーに仕上げることができました。



講師：上島 明子（美篤堂）

第2回 山本有三記念館 スケッチコンテスト



前回、100点以上のご応募をいただいたスケッチコンテストを今年も開催いたします。コンテスト終了後、入賞作品は山本有三記念館にて展示いたします。あなたの絵で、記念館を飾ってみませんか？

作品募集期間 2014年12月7日[日]まで

コンテスト 2015年1月17日[土]～1月25日[日]

会場▶三鷹市公会堂さんさん館

*詳細はホームページをご覧ください。



編集・発行

三鷹市山本有三記念館

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 2-12-27

TEL 0422-42-6233 FAX 0422-41-9827

ホームページ <http://mitaka.jpn.org/yuzo/>

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：月曜日及び年末年始（12月29日～1月4日）

*月曜日が祝日の場合は開館し、翌日と翌々日を休館。

入館料：300円（20名以上の団体200円）

*中学生以下、障害者手帳持参の方とその介助者、校外学習の高校生以下と引率教諭は無料。

アクセス：JR中央線「三鷹駅」南口より徒歩12分

JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」南口（公園口）より徒歩20分